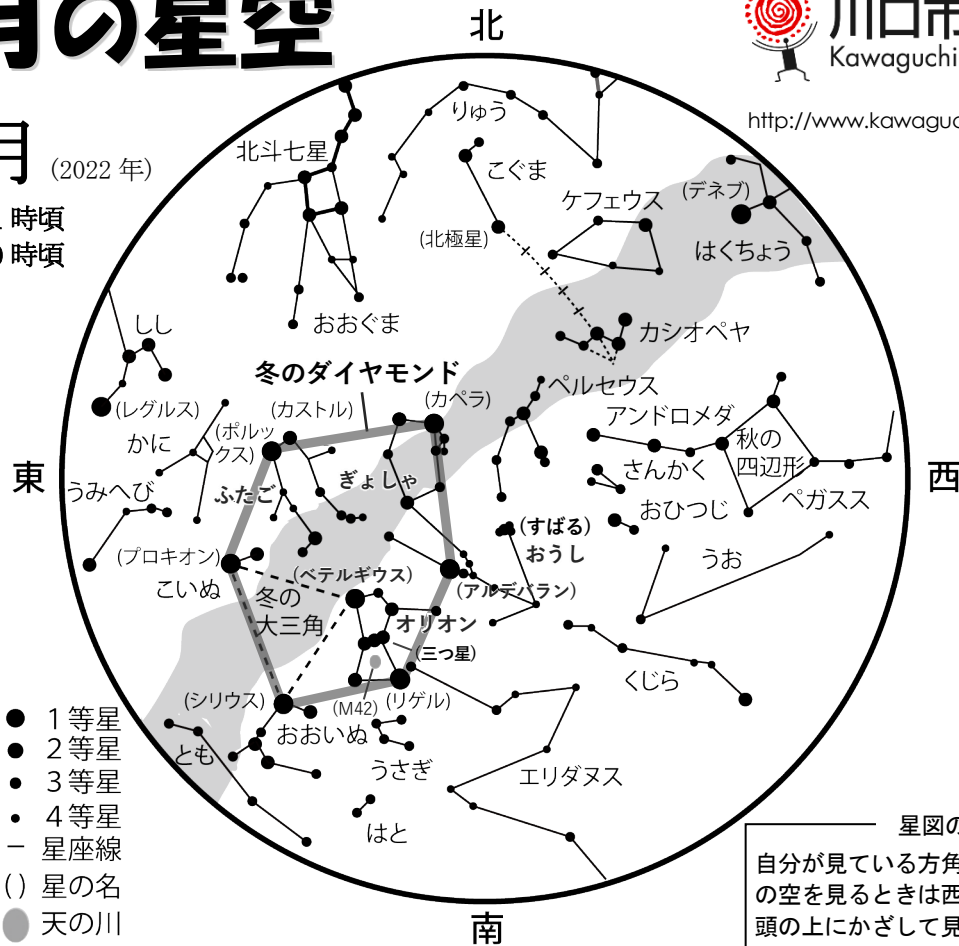


今月の星空

1月 (2022年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 3 日、● 上弦 10 日、○ 満月 18 日、● 下弦 25 日

惑星情報 金星 日の出前 東(いて座 -4→-5 等)※下旬以降

木星 日の入後 南西(みずがめ座 -2 等) 土星 日の入後 南西(やぎ座 1 等)※月上旬まで

☆凍てつく夜空に輝く冬のダイヤモンド

明るい星が多い冬の星座をうまくたどる方法は、①オリオン座を見つけ、②冬の大三角をたどり、周囲の1等星も使って、計6つの1等星でできる③冬のダイヤモンド*を目印にすることです(星図参照)。これだけ多くの1等星がそろうのは冬のみです(四季の星座別、1等星の数…春3、夏4、秋1、冬7)。さらに、冬は空気が乾燥して透明度が高いことと気流の乱れが大きく星の瞬きも大きくなることも加わり、市街地でも多くの星がきらきらと瞬いて見える、冬ならではの星空となります。

※「冬のダイヤモンド」…6つの1等星(実際には1等よりも明るい星もある)ーリゲル(0.2等、オリオン座)、シリウス(-1.4等、おおいて座)、プロキオン(0.4等、こいて座)、ポルクス(1.2等、ふたご座)、カペラ(0.1等、ぎよしゃ座)、アルデバラン(0.9等、おうし座)ーをつないでできる六角形。

☆冬の夜空で最も目立つオリオン座

1等星2つ、2等星5つと明るい星が多く、均整のとれた星座。74オリオンは、ギリシャ神話における海の神ポセイドンの息子で、腕の良い猟師とされています。起源は古く、紀元前1400年頃にはメソポタミア地方で「天の狩人座」として知られていました。

【主な天体(※右図に4.0等よりも明るい星を示す)】

- ・ベテルギウス…星の寿命の晩年期となる赤色超巨星で、赤く見える1等星。大きさ(直径)は太陽の約700倍。距離は約550光年。
- ・リゲル…表面温度が12,000度の高温かつ巨大な青色超巨星で、非常に明るく輝く恒星のひとつ。距離は約860光年。
- ・オリオン大星雲(M42)…星の材料となるガスやちりが集まる星形成領域。距離は約1500光年。最も観察しやすい星雲のひとつ。

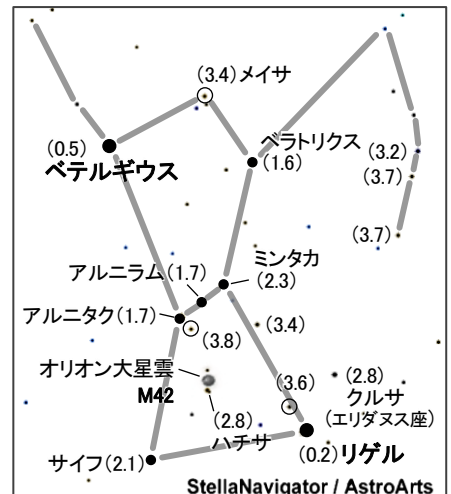


図 オリオン座の主な星の名前と明るさ
カッコ内は等級を表す